

7月8月祖田谷の蝶

松井 正人

1979年7月23日から8月4日にかけて、富山県宇奈月町祖田谷<sup>ばばた</sup>に滞在することができた折に、時期はずれとも思われる蝶を見つけたので、それらと共にその環境と目撃確認できた蝶を報告する。

## 環境

標高は900m前後で、ブナ、ミズナラを主体とした林である。中にサワグルミの大木が交ざり、カエデ数種、ハリギリ、ゴンゼツ、オオカメノキ、クロモジ、アオダモsp、イボタ、ヤマウルシなどが見られた。ブナにつきもののササはあまり見られなかった。

## 目撃確認できた蝶

7月24日	キアゲハ 1ex
25日	キバネセセリ 2exs
30日	ウスバシロチョウ 1ex
31日	クモマツマキチョウ 1ex
8月1日	ミスジチョウ 1ex
2日	アゲハチョウ 1ex、ウスバシロチョウ(♀成虫)、 キバネセセリ 2exs
3日	キアゲハ 1ex、ミスジチョウ 1ex

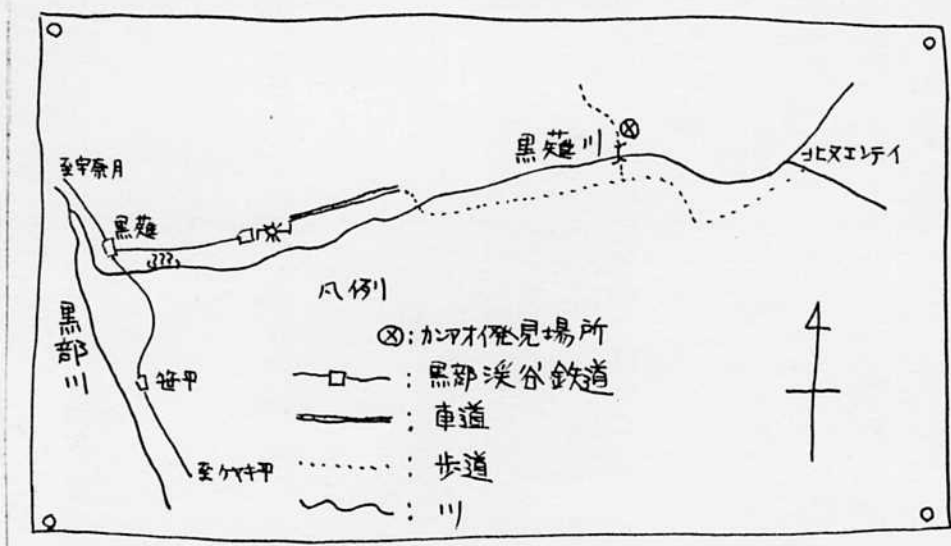
## 目撃がはっきりしない蝶

ミヤマカラスアゲハ、コキバネセセリ、ヒキマダラヒガ

黒薺谷でカンアオイを見つけた

松井 正人

1979年9月13日、黒部川の支流黒薺<sup>クロナギ</sup>川谷でカンアオイを見つけた。場所は黒薺発電所と北又堰堤との中間で標高約470Mの所である。カンアオイが見られるのは、川が蛇行している内側でかつて川によって作られたと思われるほとんど平坦な場所及び近くの斜面である。この斜面は南向きでミズナラ、ブナ、カエデ数種が多く見られ、クロモジ、ツクシヤクナゲ、ユズリハなどもあり地表にはイワカガミが多く見られ、カンアオイは10m×10m位の範囲で見られた。



付近のカンアオイにはクロヒメカンアオイがあり、上流の北又と黒部川本流の笹平<sup>(\*)</sup>で記録されているので、このカンアオイとクロヒメカンアオイではないかと思われる。  
ギフキョウ生息の有無に関しては、北又での記録があるので生息の可能性が強く、あわよくばシヤクナゲでの吸蜜シーンも見られるのではないだろうか。

\*1. 中川秀幸・大野豊 (1978) 富山県のギフキョウとその食草の分布 昆虫と自然 13(3): 33~36

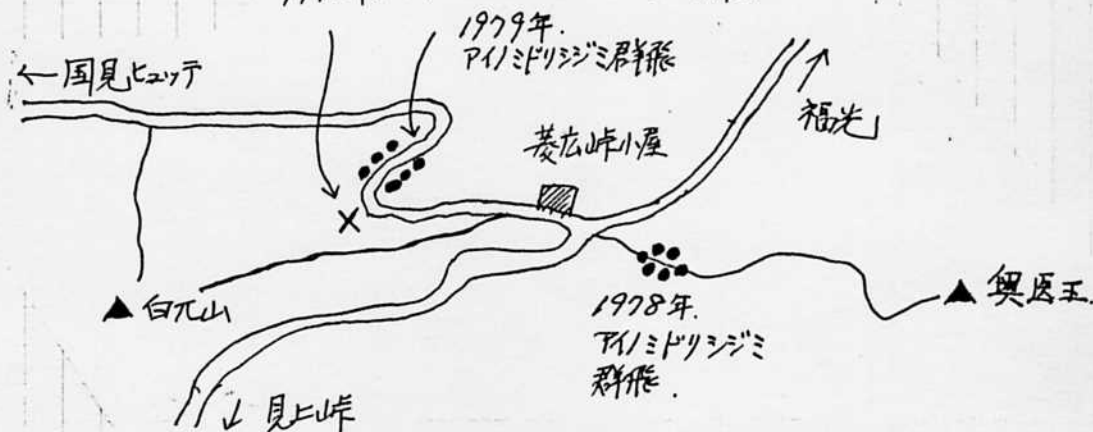


菱広峠のアイノミドリシジミ

吉村 久貴

昨年(1978年)7月初め、菱広峠より奥医王に至る登山道で、アイノミドリシジミの群飛が見られたことを報告したことがあるが、本年もやや離れた所で昨年より更に数の多いアイノミドリシジミを自撃し採集した。採集した個体はすべて雄であり、アイノミドリの活動期間とされている午前10時までで、10時には一頭の飛翔も認められなくなった。

1978年、Xスアカシドリシジミ1♂採集。



昨年(1978年)自撃した場所は比較的ミスナラ・コナラの少ない川木の茂る所で、発生地がはつきりせず、採卵に出かけた人の中から、「全然卵がなかった。」という声が聞かれた。本年(1979年)群飛が見られた場所は、片側が谷で落ち込んでおり、もう片側は、低い崖で、その上にかのりのミスナラ・コナラが見られる。アイノミドリは谷側に生えるススキの葉にのんびりと止まり、朝陽を浴びているが、他の雄が飛んで来ると追飛を開始しこれを攻撃する。

2頭のアイノミドリが入り乱れて飛ぶ様子もすごいが、時には3頭4頭の追飛も見られた。発生源は山側に生えるミスナラ・コナラの様で、ススキに止まっているアイノミドリめがけて、飛び降りて来る風である。本年は6月末は雨にたたられ採集に出れず、7月4日、5日、の朝に採集したが採集個体の半分程は、どこかがいたんでしまっている個体であった。なお、昨年の場所では6月26日に1雄を採集しただけであった。

ススキに止まったアイノミドリは遠くからでも、それと判断できるくらい朝陽に金緑色に輝いていた。

示一タ 1979. 6. 26 1♂ 医王山菱広峠

1979. 7. 4 1355 匠王山菱広峰  
1979. 7. 5 985 "

なお、採集個体の2倍ぐらいの、群飛が見られた。採卵は控えましょう!!

### □ タカネヒカゲ目撃記 □

白馬岳から唐松岳へ 吉村 夕實 □

1979年7月下旬、北アルプス白馬岳に登山の際、多数のタカネヒカゲを目撃したのでここに報告しておく。

白馬岳は、タカネヒカゲの有名な既知産地である。7月25日の朝、3時に金沢を出发、途中朝食をとって8時頃、糠倉に到着。大雪山まで1時間あまり、大雪山をのぼること2時間、ねぶか平に到着。

ねぶか平にはシロウマオウギやタイツリオウギの他、ミヤマムタザオもあり、確かな筋によると白馬ロジについた時と雨が降り、タカネヒカゲなんぞは一匹たりとも見られなかった。

しかし、夕暮れになると空も晴れ上がり白馬岳山頂からは、すばらしい落日が見られた。

2日目、テントをたたんで出発すること5分。登山道わきでライチョウの親子に遭遇。ちっちゃなヒナ鳥が4〜5羽はいた。更に進んで白馬湖を過ぎる。天候も絶好でタカネヒカゲは見られるはずであるが、なかなか現われない。天狗川屋に到着、水を補給して出発。10分ぐらい歩くとガレキ地帯に黒っぽい蝶がせわしく、すばしっこく飛んでいる。目の前に止まった個体を見るとまさしくタカネヒカゲであった。

けっこう、数がいるようである。更に進むと天狗の頭に着く。

昼食をとって、天狗の大下りにかかる。大下りの途中、鎖を過ぎた所でまたタカネヒカゲを目撃。不屏キレット、I峰、II峰を通過する時は、まわりの蝶なんかには目も向かない。危ない所を過ぎて唐松岳に到着。唐松岳ではキャンプ場の上部に広がるガレ場でまたタカネヒカゲを目撃。夕方であったがゆっくりに飛んでいた。

3日目、八方池を通過して、ケーブルに乗り下山した。

来年は、唐松から更に南下して、鹿島槍の方まで調査してみたい。

### □ 連載シリーズ 採集と飼育 1 □

諸道 秀人 □

#### 1. ミヤマセセリ

春先に発生するこの蝶は、比較的成虫はよく見かけるが幼虫は、

採集することが難かしいものの一つである。

今までに筆者も一世代通して飼育したことがないが、断片的に採集した経験があるので紹介します。

産卵は日当りのよい中〜低木の下枝の葉のつけ根付近に一卵づつ行われ、色彩は赤色でよく目だつ。

幼虫はダイミヨウセセリ型の巣を作り中にひそむ。

採集は日当りのよい小木の巣を目あてにさがすとよいが、ナラ属は、蛾も多種類寄生するので、確率は悪い。

食樹は、ブナ科のコナラに多く、時にクヌギ、アバマキ。ただし、金沢ではミズナラの可能性もある。

## 2. ダイミヨウセセリ

食草は、ヤマノイモ科の各種で、野生・栽培を問わず発生するが日陰に多い。

幼虫はテント形の巣を作り中にひそみ、蛹も巣中で発見される。天敵として、蛹よりハチ、幼虫よりハエが脱出する。

## 3. アオバセセリ

平栗町、別所町、樫見町、横谷町等に生息し、幼虫は巣を作り中にひそむ。

弱令でテント型、中令で穴付の、老令で大型の巣を作るので採集はやさしい。

食樹は、アワブキ科のミヤマハハソで所によりアワブキにも発生する。

連載シリーズ2 食草コーナー1

諸道 秀人

## 1. ウマノスズグサ

ウマノスズグサは、ジャコウアゲハ、バニモンアゲハ等の食草であるが、つる性の一年草で根で越冬する。

局地的に存在するが、その場所では群をなしていることが多く、ジャコウアゲハが生息していることもある。

ジャコウアゲハもギフチョウと同様に、茎まできれいに食べつくすが、再成力は大きい。

しかし株の成長率は小さいので、注意が必要である。  
 写真は少しぼけているが、瀧高尾のものである。  
 ここでは、ジャコウアゲハは生息していない。

## 2. アワブキ

本種はアオバセセリとスミナガシの食樹であるが、ミヤマハハソに比較すると、その利用度は、一般に低いにもかかわらず、平栗町、別所町ではスミナガシ、アオバセセリ両種が発生している。

落葉高木であるので、低木のミヤマハハソより幼虫はとりにくいと思うが、葉が著しく大きく、水上げもよいので飼育には都合がよい。

なお、樫見町等のより山間部では、ミヤマハハソに植生がかわるので注意が必要で、かつ両種の混在する地点では、アワブキでは幼虫はとれないのでこれまた注意。

写真(下)は平栗町のアワブキでアオバセセリの葉が見える。



(上)ウマノズグサ (下)アワブキ

9月10日、白山で災難にあった虫達

諸道 秀人

9月10日、橋場、嶋城井両氏と白山釈迦道、ミツ岩へ行った。その時、災難にも抑まっておえなく昇天した虫を紹介します。

キバリタテハ、クロヒカゲ、ルリシジミ、イチモンジセセリ、ア

サギマダラ等の蝶と数種のカミキリムシ、ゴミムシに加えて、多量のハコキ虫とアカアシクワガタが昇天しました。

現在生き残っているものは、アカアシクワガタ2♂♂、ヒメオオクワガタ1♂、ヤマキマダラヒカゲ(ただ今蛹)、ヒメキマダラヒカゲ(うち蛹3頭)です。

なお、ハコキ虫を多量に手でわしづかみにした。橋場氏の手は、2m内に近づいた人間を驚かす臭いを発していた。その他横井氏はキマダラを数本採集した。

### アサマシジミ採集記追憶

吉村 久賢

1969年6月24日。日帰りで白馬山麓に採集に行く機会があったので、その時に見られた蝶を記す。

最大の目的は、アサマシジミであったがあまり成果があがらなかった。何しろ初めて当地へ採集に行ったため、どこへ行ってよいか迷ったあげく、スキーをしに行ったことのある神城(五竜遠見スキー場)へ行ってみた。比較的、ゆるやかな斜面が続いている草原に、多数のヒメシジミやヒョウモン類がみられた。

ヒョウモン類は、コヒョウモンが多く、クモガタヒョウモンやウラギンヒョウモンはいくつかアサマシジミに吸蜜に来ていただけである。

その他、フタスジチョウ、ギンイチモンジセセリ、モンキチョウ、コツバメ、ヒメウラナミジヤノメ、ウラゴマダラシジミ、コチャバネセセリなども見られたが、コツバメはかなり時期が遅いようであった。

アサマシジミは、ここで1♂のみであったが、わずかに離れた他の3箇所には、群青の輝きが強かった。白山中宮産や早月産に比べてかなり大きい。

### 採集記録

・長野県北安曇郡白馬村神城

アサマシジミ	1♂	フタスジチョウ	2exs
ヒメシジミ	30884♀	ギンイチモンジチョウ	2exs
モンキチョウ	1♂1♀	クモガタヒョウモン	1♂
ウラギンヒョウモン	3exs	コヒョウモン	16exs
コツバメ	1ex	ウラゴマダラシジミ	1ex
ヒメウラナミジヤノメ	1ex	コチャバネセセリ	1ex

次に、南相模の佐野坂スキー場へ行ってみることにした。車を停めて、歩き出すとイチモンジチョウが舞っていた。少し行くと、線路を渡る。と、ここで、足もとから一匹の黒ずんだシジミチョウが飛びだした。探ってみるとアサマシジミの♂であった。ヒメシジミに比べると大きいと感じる。スキー場のロッジの横には、フィールド・アスレチックのコースがあり、蝶採集には最高だ。おおよそ神城と同じような蝶がみられたが、ウスバシロチョウが飛んでいた。

採集記録

○北安曇郡白馬村佐野

アサマシジミ	2♂♂	ウスバシロチョウ	1♂
ギンイチモンジセリ	1ex	フモガタヒヨウモン	1♂
ウラギンヒヨウモン	10exes	ヒメシジミ	2♂♂

更に、当日最後の飯森へ行ってみることにした。しかしゲレンデは牧場に早変わりして中に入れてくれない。しかたなしに、未舗装路で採集する。

ここでようやく、メスグロヒヨウモン1♂を採集。メスでないので残念だ。その他は、だいたいの他の2ヶ所と同じ種がみられた。

採集記録

○北安曇郡白馬村飯森

アサマシジミ	1♂	アサマイチモンジ	1ex
サカハチチョウ	1ex	フタスジチョウ	1ex
ヒメウラナミヤシ	1ex	コキヤバネセセリ	1ex
メスグロヒヨウモン	1♂	ヒメシジミ	3♂♂ <del>2♀♀</del>

ざっと、こんな具合であった。アサマシジミについてはようやく、ナンテンハギとイワオウギがわかるくらいで、エビラフジはわかりません。来年は金草をしっかりと知って、もっと能率よく捜したいと思う。

なお、当日金沢大学薬学部の山路君、大沢君のほか、金沢大学理学部の佐々君が同行したことを付記しておく。



APR. 22. 1979

金沢市板尾町



湯涌行きのバスに乗って、苡原にて下車。バス停より少しもどって三叉路を左。板尾への登り口はわかりにくいので人に聞く。30分程で廢村跡に着くがそこまでの山道に連続的にギフチョウが発生している。合は全部ボロボロで、早もややすれている。

午前9時から12時にかけて次の蝶を採集。

ギフチョウ 5合 4♀♀

ゴッバ× 2合 (ボロ)

トラフシジミ 1♀ (完品)

ルリシジミ 1♀

ツマキチョウ 1合

スジグロシロチョウ 1合

エゾスジグロシロチョウ 1♀

目撃; ヒオドシ、テングチョウ、ルリタテハ、ミヤマセセリ、ナミアゲハ、キアゲハ

廢村した村の名から推測してトチノキがあるかと思われたが見あたらず。

APR. 22. 1979

金沢市湯涌町



板尾を下りて苡原からバスで湯涌へ。江戸村の前の休憩所で昼食をとる。午後1時30分頃から採集を始める。名古屋から2人、大阪から1人のチョウ屋にあった。湯涌の名は知れ渡っているらしい。山菜採りと多く山は賑やかであった。天気は快晴。気温と上昇絶好の採集日和。しかしギフはすべてボロ。高尾山登山口まで歩いたが、後半はギフチョウ少し。

ギフチョウ 2合 3♀ (1♀は採卵用に持ち帰る)

ミヤマセセリ 1♀ (完品)

MAY. 4. 1979

長野県白根村原野



木曾福島の駅にて野宿。2番乗車で原野へ。原野駅構内のサクラは満開をほんの少し過ぎて散り初めといったところ。天気は快

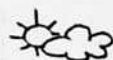
晴。1977年の夏、ゴルフ場付近でチャマダラセセリを採集したので、今回もゴルフ場付近の特にタンポポやミツバツチグリの花を翳ることにした。しかし結果は快晴無風という好条件にもかかわらず、チャマダラセセリは姿を見なかった。

畑地の上を飛ぶヤマキチョウの姿を多く目撃したが、意外にネットインが必ずかしい。

モンキチョウ 3,	ツバキシジミ 1♀,	ツマキチョウ 1♂
コツバ 1♂,	モンシロチョウ 1♂,	スジグロシロチョウ 1♂2♀
クジャクチョウ 1,	ヤマキチョウ 1♂,	

目撃: ナミアゲハ、ルリタテハ、キアゲハ、バニシジミ、ミヤマセセリ。

JUNE 10. 1979 石川県鳳至郡門前町



吉村さんの運転する車で7時30分金沢を出發。9時40分頃、門前町道下を通過。この辺りより河原の柳を調査しながら進行。

やはり柳の木の数に比例してコムラサキも多く、採りやすい場所を見つけて採集することがコツである。

しかし提防沿いの道ではあまり能率はあがらず、数多く採りたいなら川の中へ入った方がよい。今回はひざぐらいの水位だったため比較的楽に川底を歩けた。午後2時ぐらいまで採集し、クロコムラサキ9頭、同行の吉村さん5頭、松井さんは2頭という成績。普通のコムラサキは1度目撃したのみ。時期やや遅し。

コムラサキ(黒色型) 9♂♂ (新鮮個体1, 2頭, 他はやや破損)  
 キタテハ ♀ ex 3 (新鮮)  
 サトキマダラヒカゲ 1 ex ホロ。

他. セセリ4♂♂2頭 (おとて"検索")

MAY 20. 1979 金沢市倉ヶ岳



道法寺より倉ヶ岳頂上付近まで登り、山頂<sup>トビ</sup>へ下るコースをとる。気温がぐんぐん上昇するが、蝶の姿を殆んど見かけない。やたら、クマンバチが多い。2時間程登って、獅子吼高原と倉ヶ岳峠との別れ道に出るが、ここまでの間で目撃できたのは、コミスジ、トラフシジミ、コチャバネセセリ、コムラサキ♂のみ。黒色アゲハ類やツ

スバシロチョウを全く見かけないの是不思議。

倉ヶ岳の上の部落付近でムラサキケマンの花を見つけた。ようやくスバシロの姿を見かける。四十才の方へ下る道沿いに結構ムラサキケマンがあったが、スバシロは5匹のみ。この季節の倉ヶ岳は全く面白くない。

ウスバシロチョウ	5匹	ゴミスジ	2匹
キマダラヒカゲ	1♀	コヤバネセセリ	2
サカハチチョウ	1匹		

目撃：コムラサキ、アカタテハ、ツバメシジミ♀、トラフジミ、スジグロシロチョウ。

- フグク -

## ニューフェイス紹介

八木橋 英蔵氏 (金沢工業大学・理化学科3年)

現住所 〒921 石川県野々市市扇ヶ丘4-20、14号棟留置場417号室  
TEL 0762-26-4406  
帰省先 〒030 青森県青森市中央2丁目14の6  
TEL 0177-77-6126

扇ヶ丘の住人となって、3年目、金沢の木にもなれ、あれこれといろいろな方面をかじっておられる。金沢のギフチョウ多産には目を見はるものがあるそうだ。  
青森では、標本箱いっぱい、ギフチョウは大変価値があるそうです。

□ 青年と人妻が恋に

MRO(北陸放送)-TV □

「旅立ちは夢か」(原タイトル「黄色い皇座」 芝木好子原作・文芸春秋刊)というテレビ新番組が、11月7日(木)PM10:00より始まった。

主人公は蝶屋である。ドラマのシーンに東京都内にシロオビアゲム(雄)が翔んでいたりにして「オヤ!!」と頭をかしげる場面も時々出てくるが、物語中にどなたか(不明)の素晴らしい標本をみるシ

ーン(ほとんどが外国産の標本か?)やトロピカーナといふ名の喫茶店(蝶屋のたまり場)の風景が随所に出てきてはかたかた観。

蝶屋が主人公のTV番組を撮って、なかなかお目にかかれないので見なかった人は、必見をおすすめする。(編集子)

**会員の動き** 1979年11月2日～11月4日。金沢工大・大学祭にて諸道氏より「蝶屋の生態」の一端として、氏の撮影された蝶の生態写真を多数展示されました。会場を訪れた来賓の間に大友好平を博し、このコーナーを訪れた人は、800人は下らなかったと当人は、ほざいている。

## まよりのテレビ

ドラマ



青年と人妻とが恋に  
旅立ちに愛か(新番組)  
ストーリー。

(毎日系)後10・0)  
チヨウに魅せられた青年・陸一(田中健)と、あじけない人妻・貴子(若尾文子)との愛を描いたロマンチック・ラブ

は大阪に単身赴任、そんなある日、チヨウのエサを採集に行つた洋は、やはりチヨウを逢う陸一と知り合ひ、洋は陸一に家へ来るように誘つた。

陸一(田中健)左は貴子(若尾文子)らを招き、洋(尾美としのり)にチヨウ

の標本をみせる

## 目次

7月8月祖田谷の蝶	-----	松井正人	1
黒糠村でカンアオイを見つけた	-----	松井正人	2
菱浜のアイノミドリシジミ	-----	吉村久貴	3
タカネヒカゲ巨峰記 ←白馬岳から唐松岳へ→	-----	吉村久貴	4
連載シリーズ ←採集と飼育1→	-----	諸道秀人	5
連載シリーズ ←食草コーナー1→	-----	諸道秀人	6
9月10日、白山で突撃にあった出逢	-----	諸道秀人	7
アサマシジミ採集記追憶	-----	吉村久貴	8
採集メモより ←その2→	-----	金平永二	9
青年と人妻が恋に -MRO-TVより-	-----	編集子	11

発行 第9号

1979年11月18日

発行：金沢市三ノ宮新町2-9-34 松井正人方  
百万石蝶談会

編集：嵯峨井 淳郎